

2015 年度理事長予定者 山下 和博

スローガン

志高く

～いましかできないことを～

2015 年 公益社団法人奄美大島青年会議所 基本理念

志が生み出す「底知れぬ力」による奄美再興

事業計画

1. 会員拡大の推進
1. 4 島連携の推進
1. 公開討論会の推進

○ はじめに

「とうちゃん起きて、とうちゃん起きて」棺の中に横たわる 28 歳の父に泣きながら呼んでいた事を少ない幼少の記憶の中に残しています。

父は、私が 4 歳の時にガンで亡くなりました。早すぎる死でした私は今その父より 11 年長く生きています。

父が亡くなってからは母が女手一つで私と弟を育ててくれました。

夜遅くまで機織りをし、人一倍頑張り、何不自由ない生活を与えてくれたお陰で高校を卒業し専門学校への進学も叶いました。

いつかは島に帰り母の仕事を手伝うものだと思っていました。

そして 28 歳の時に故郷である与論島に戻ってきました。

母の事業を手伝い発展させて経営者として成功したいという目標を持っての帰郷でした。

島外の会社を退職する際、社長から青年会議所への入会の勧めもあり青年会議所の意義すらわからず入会しました。

入会してから青年会議所から学んだ事それは青年会議所とは私にとって今までの、そしてこれからの人生を変える最も大切な「志・学び・出会い」を得られる時間でした。

人は自己を犠牲にしてでも大切なものを守ります。

愛する人・家族・友人・事業・趣味、守るものは人によって違うでしょう。

私は青年会議所に入って、守るものが変わりました

事業や家族だったものに「故郷や今まで考えもしなかった地域の人の幸せ」という大きな

ものが加わったのです。

地域の事に汗を流すのは容易な事ではありません。

何の見返りも期待できません周りに理解されないかもしれません。

しかし、青年会議所出会った仲間と深く考え精査し実行する事業は必ず地域の未来へと繋がります。

年齢制限のある青年会議所、「いましかできないこと」がここにはあります。

今、この一瞬一瞬を大切に生きる人間とそうでない人間では5年後・10年後雲泥の差がでます。

今仲間と流す汗と涙は私たちの未来へと必ず繋がります。

青年会議所とは、私達にとって今までのそしてこれからの人生を変える最も大切な「志・学び・出会い」を得られる時間です。

○会員拡大

日本全体が高齢化社会へ向けて進む中、私たちの住む大島郡島においても高齢化率の上昇・若者の流出など、他の地域に比べても早いスピードで進んでいます。

一方で「長子なので、親の面倒を見なければ」・「都会の生活に疲れた」などといった理由で帰郷する若年層もいます。しかし、帰郷しても何をすべきか見出せず、自己の能力、可能性を開花できない若者も多くいます。

そのような若者たちを導く事が出来るのも青年会議所だと思います。

20代30代と何事にも挑戦できる年代に、多くの仲間と出会い学びや気づきを得る事はその後の人生において大変貴重な経験となります。

事実、私も自分の事業を営む上で地域との関わり方・事業の理念の大切さ・事業計画の立て方など青年会議所活動を通して学んだ事が非常に役立っています。

この素晴らしい経験をより多くの若者と共有したいと思います。

そのためには、現在のメンバーが行う事業に公益性があり地域の発展に寄与できる事業である事、そして最も大切な事は事業をメンバー自身が楽しんでいるという事です。そのような「底知れぬ力」は若者を惹きつけ、自ずと会員拡大につながると思います。

まずは私たちが楽しい事業を行い会員拡大につなげましょう。

○ 4 島連携の推進

昭和29年6月奄美群島復興特別措置法が制定され63年、果たして本当に奄美は自立への道を進んでいるのでしょうか？

人口減少・高齢化率の上昇・地域産業の衰退など外海離島を取り巻く環境は他の地方都市よりも過酷です。

私たちの多くは地域の方を対象に商いを「行い」生活しています。

しかし、人口減少による経済規模の縮小は止める事が出来ません。
地域経済を発展させるためには交流人口の増加しかありません。
奇しくも、昨年度、奄美群島振興交付金による航空運賃への補助が実現し、
奄美への LCC バニラエアによる成田～奄美の航路も開設されました。
また、平成 29 年には世界自然遺産登録申請も控えています。
そこで、奄美群島 4 島を対象とした観光推進事業を行いたいと考えます。1つ1つの島にそれぞれ魅力がありますが奄美群島全島が連携することにより魅力は何倍にもなります。
各島に会員を有する奄美大島青年会議所でなければできない広域的な観光推進事業を行い、世界自然遺産登録時には奄美大島を起点としてそれぞれの島を巡るツアーが確立し、
地域でのそれぞれの事業に少しでも観光というスパイスを加える事によって地域経済の発展を促進し、定住人口が増え、青少年育成が身を結びさらなる地域発展を促進します。

○公開討論会の推進

主権者（有権者）によって選ばれた各自治体の長は、地域の生活を豊かにするために政策を執り行ないます。また、その自治体の長によって管理・運営される組織が行政であり、つまり、行政の質は主権者（有権者）の質が反映されているのであります。

これまで各選挙において立候補者の質を確かめる術は少なかったのではないのでしょうか。奄美群島の各島々は外海離島であるため、地縁血縁による票の取り合いで、終始名前の連呼ばかりの選挙で、政策本位ではなかったのではなかったように思われます、近年各島において公開討論会が実施されてきた事は非常に有意義なことでありますが、まだまだすべての選挙において公開討論会を実施していないのが現状です、会員には仕事上の付き合いなど実施することへの抵抗もあるでしょう。

公開討論会を行うことは非常に勇気のいる事である。

しかし、私たち奄美大島青年会議所にしかできない事業であり、市民が最も求めている事業ではないのでしょうか。

故郷を誇りに思える教育を掲げているか、また各地域に適した労働生産性の高い政策を掲げているかなど、奄美大島青年会議所の事業の観点から精査し、市民へ知らしめるべきであります。

近年全国の青年会議所では公開討論会を開催し、クロストーク型を用いるなど、政策の違いだけでなく、立候補者の政治家としての力量や人となりまでも届けてきています。

奄美群島において公開討論会が定着することは誠実なリーダーが選ばれ、各島々が発展できる為に必要不可欠な事です。

未来を生きる人のために今我々が行動を起こさなければいけないと考えます。

成熟した民主主義国家において、国や地域を良くするために与えられた手段は紛争や暴力ではなく選挙であります。

本年3月、統一地方選挙が行なわれますが、これを好機として捉え、自らの責任で誇れる

地方自治体をつくる主権者意識を高めていきます。

○ 結びに

事業を手伝いだして5年目ぐらいに、本土での大型小売店の倒産があり、1年後には生産の現場への影響が顕著に見られ、売り上げも3分の1にまで減少しました。

事業をあきらめ、就職の道も考えました。

その当時与論島には斎場がなく自宅で親族が集まり手作りの葬儀をしていました。雨の降る日にはテントの下で肩を寄せ合い、熱い日には汗をかきながら、故人を弔うのです。親族は故人と別れを悲しむ事すら出来ない状況でした。

そこで青年会議所で知り合った葬祭業を営んでいる方にノウハウを教えていただき、新規事業として葬祭業を立ち上げ現在では我社の中核事業となっています。

青年会議所に入会し地域の事を考えるようになり、地域に必要とされている・地域の為に取り組みたいという強い志があったからこそ立ち上げる事が出来ました。

地域の発展とは、思考的な事や経済の発展の両方があると思います。

青年会議所は志を強く持った青年が、地域のために頑張れる団体です

地域の発展とはそこに住む人々が満足できる教育・生活レベル・就業・サービスが受けられ、定住する事により経済が成り立つものだと考えます。

責任世代である私たちが志を高く持ち、地域の発展に果敢に挑む事こそ青年会議所の姿だと思います。

40歳青年会議所最後の年に理事長という大役を担うことになり、緊張と期待が入り混じっていますが私自身成長できる機会だと捉え今年1年持てる力を精一杯発揮し頑張る所存です。どうぞみなさんのお力添えをいただきますようお願い致します結びとさせていただきます。